

スペイン語における Pair-List Readingの異同について 英語との比較の観点から

La disidencia de interpretación de lista a pares en español
en comparación con la interpretación correspondiente en inglés *)

石岡 精三
Seizo ISHIOKA

0. はじめに

(1) と (2) で示されるように、英語における Pair-List (ペア列挙) の読みは普遍数量詞 (universal quantifier) 表現と Wh 要素が一定の構造条件を満たす場合に可能となる。この構造条件が満たされる (1a) では、Pair-List の読みが許容される。(2a) では、Pair-List の読みが排除される。

- (1) a. Who does everyone like?
b. Professor Smith (individual answer)
c. Bill likes professor Smith, Susie likes professor Jones,... (Pair-List answer)
- (2) a. Who likes everyone?
b. Susie (individual answer)
c.*Professor Smith likes Mary, professor Jones likes Susie.... (Pair-List answer)

(1) の構造に対応するスペイン語用例 (3a) においても、この Pair-List の解釈が許される。(2a) に対応するスペイン語用例 (4) は、異なる話者グループの存在を物語る。Jaeggli (1991) が属すグループでは英語と同様の挙動が観察され、この場合の Pair-List の読みは排除される (これを A グループと呼ぶ)。Gutiérrez Rexach (1995) が属す B グループでは、Pair-List の解釈が許容される。

- (3) a. ¿A quién examinó cada doctor? [^{*}Pair-List] (Jaeggli 1991: (10a); Gutiérrez Rexach 1995: (7a))
'Whom did every doctor examine?'
b. El doctor López examinó al paciente 1, el doctor García a los pacientes 2 y 3 (Gutiérrez Rexach 1995: (8))
'Dr. López examined patient number 1, Dr. García patients number 2 and 3'
- (4) a. ¿Quién examinó a cada paciente? [^{*}Pair-List] (Jaeggli 1991: (10b))
'Who examined every patient?'
b. ¿Quién arrestó a cada delincuente? [^{*}Pair-List] (Gutiérrez Rexach 1995: (9b))
'Who arrested every criminal?'

Minimalist Program (Chomsky 2000) に基づく本稿において、上で確認された両言語の相違を説明する論法が提示される。この相違は、Wh 要素と普遍数量詞それぞれの作用域位置 (scope position) の同定プロセスに還元されることになる (この同定プロセスは、英語そしてスペイン語における Pair-List の読みの可否と優位条件 (superiority condition) をも説明するものである)。本稿は、以下のように構成される。第1節では、数量詞に付与される作用域 (scope) 決定プロセスが提示される。数量詞繰り上げ (quantifier raising) を前提しない本稿では、scope が LF 構造におけるコピー位置によって決定されると考える。英語における優位条件 (superiority condition) と Pair-List の読みが scope position に関する仮説によって説明可能であることが示される。第2節では、スペイン語における優位条件に検討

が加えられ、本稿の (4a) と (4b) の相違を説明する論法が提示される。結びを構成する第3節では、本稿の仮説に対して問題を惹起すると思われる用例を検討し、それに対する打開策が提示される。

1. 英語における作用域位置 (scope position)

Minimalist Program に立脚する本稿では数量詞繰り上げ (quantifier raising) を想定することはできない。Hornstein (1999) と同様に、作用域 (scope) が LF 構造に基づいて決定されると考える。例えば (5) にあるように、主語である数量詞 (*someone*) は VP 内部に基底生成され、Spec(AgrS) へ統語移動する。目的語の数量詞 (*every seminar*) は、基底生成された位置から Spec(AgrO) へ LF 移動する (一般的に、基底生成された位置、主語要素が移動する Spec(AgrS)、直接目的語が移動する Spec(AgrO) などが scope position を構成する)。移動によって生じた Copy は、一つを除きすべて削除されると想定されている (() 内の要素は、削除されるコピーを表す)。(5b-d) では、主語数量詞 (*someone*) が目的語数量詞 (*everyone*) よりも広い作用域をもつ (前者の scope position が後者の scope position を C 統御する)。(5e) では、目的語数量詞 (*everyone*) が主語数量詞 (*someone*) よりも広い作用域をもつ (目的語数量詞の scope position が主語数量詞の scope position を C 統御する)。¹⁾

(5) scope (作用域)

- a. Someone attended every seminar (Hornstein 1999)
- b. [AgrSP someone [TP T [AgrOP every seminar [vP (someone) [vP attended (every seminar)]]]]
→ someone > every seminar
- c. [AgrSP someone [TP T [AgrOP (every seminar) [vP (someone) [vP attended every seminar]]]]
→ someone > every seminar
- d. [AgrSP (someone) [TP T [AgrOP (every seminar) [vP someone [vP attended every seminar]]]]
→ someone > every seminar
- e. [AgrSP (someone) [TP T [AgrOP every seminar [vP someone [vP attended (every seminar)]]]]
→ someone < every seminar
- f. someone > every seminar = for someone *x* (for every seminar *y* (*x* attended *y*))
「どのセミナーにも参加した人も何人かいる」
- g. someone < every seminar = for every seminar *y* (for someone *x* (*x* attended *y*))
「どのセミナーもそれぞれ何人かが参加した」

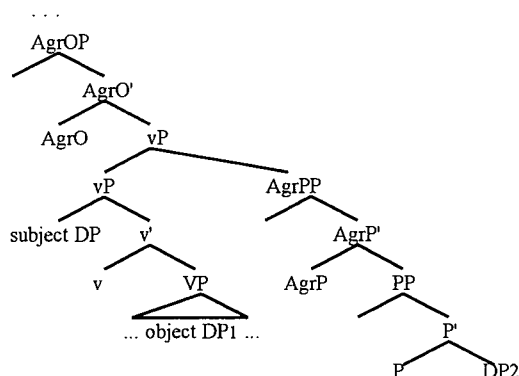
次に、与格構文 (Dative Construction) における作用域について考える。(6) の用例からも判明するように、直接目的語数量詞 (*someone*) の作用域が前置詞句である間接目的語数量詞 (*everyone*) のそれよりも広い解釈と、作用域関係が逆転した解釈も可能である。

- (6) a. I read something to everyone (ambiguous) (Stroik 1996: p.45, (34b))
X (something > everyone) Y (something < everyone)
- b. John sang something for every couple (ambiguous) (Hornstein 1995: p.173, (86b))
X (something > every couple) Y something < every couple

この事象は、与格構文に対して Hornstein (1995: pp.175-176) が提唱する構造 (7) を想定することにより説明可能となる。Hornstein (1995) と同様に、与格を構成する前置詞の目的語 (DP₂) は、照合

(Checking)に参加するため、当該前置詞句の直接上位に生成された Agr の Spec 位置へ移動すると考える(本稿では、この機能的範疇 Agr を AgrP と呼ぶ。この AgrPP は、VP に右方付加した位置に生成される)。(6)における X の作用域関係は、DP1 の scope position である Spec(AgrO) が基底生成された位置、あるいは Spec(AgrP) を C 統御することにより説明される(基底生成された位置にある DP1 が Spec(AgrP) と DP2 の生成位置を C 統御することはない)。(6)にある Y の作用域関係は、どのように導き出されるであろうか。DP2 の生成位置が Spec(AgrO) と DP1 の生成位置を C 統御することはない。この関係は、Spec(AgrP) の位置が DP1 の生成位置を C 統御することにより説明される(AgrP が機能的範疇と想定されている点に留意されたい)。

(7) Structure of Dative Constructions



ここで、英語に対して (8) の仮説を想定する。Pair-List の読みは、普遍数量詞の scope position が残置される Wh 要素 (Wh-in-situ) の scope position を C 統御する派生が存在する場合に限り許容される。これに類似して、優位条件は、統語移動する Wh 要素の scope position が残置される Wh 要素の scope position を C 統御すべきであると言う条件に還元される。

(8) Hypotheses (for English (and Spanish)):

- A. Pair-List reading obtains when one of an *every*-NP quantifier's scope positions c-commands one of a wh-phrase's scope positions.
- B. Superiority Condition is met when one of a syntactically moved wh-phrase's scope positions c-commands one of the other wh-in-situ's scope positions.
- C. In English, Spec(AgrO) does not function as a scope position.
(In Spanish, Spec(AgrO) functions as a scope position.)

これにより、(1a) と (2a) の相違が説明可能となる。(1a)において、主語数量詞 (*everyone*) の生成位置が直接目的語 Wh 要素 (*who*) の生成位置を C 統御する(当該用例における Pair-List の読みが許容される)。英語の Spec(AgrO) が scope position を構成しないため、直接目的語要素の scope position が主語要素の scope position を C 統御することはない。これにより、(2a)における Pair-List の読みが排除される。AgrS 以外に AgrO と AgrP が生起する与格構文では、どのような状況が観察される

であろうか。(9a) と (9b) は、与格構文を形成する Pair-List の読みにおいて、Spec(AgrO) と Spec(AgrP) が scope position として機能することを示す (これは、(6) における状況と同じである)。その一方で、(10a) と (10b) では、Pair-List の読みが排除される ((9b) 対応する (10c) では、Pair-List の読みが許容される)。Pair-List の読みに関する (10) の判断は、当該グループにおける直接目的語の scope position として Spec(AgrO) が指定されると想定することにより説明可能となる (直接目的語の生成位置が scope position を構成することはない)。(10a-b) において、数量詞 (*everyone*) の scope position (生成位置、あるいは Spec(AgrP)) が Wh 要素 (*what*) の scope position と指定される Spec(AgrO) を C 統御することはない。(10c) では、数量詞 (*everything*) の scope position (Spec(AgrO)) が Wh 要素 (*who*) の scope position (当該要素の生成位置、あるいは Spec(AgrP)) を C 統御する。²⁾

- (9) a. What did you read to everyone? [^{*}Pair-List] (Stroik 1996: p.45, (35a))
 b. Who did you read everything to? [^{*}Pair-List] (Stroik 1996: p.45, (35b))
- (10) a. I know what you gave to everyone for Xmas. [^{*}Pair-List] (Hornstein 1995: p.115, (63b))
 b. What did you give to everyone? [^{*}Pair-List] (Williams 1988: (7b))
 c. Who did you give everything to? [^{*}Pair-List] (Williams 1988: (7a))

同様に、以下の優位条件に関係する用例もまた説明可能となる。D-Linked Wh 要素が生起する (11e) の適格性は、当該 Wh 要素の生起がもたらす効果によって説明される (D-Linked Wh 要素が生起する派生において、Spec(AgrO) が scope position として機能する)。³⁾

- (11) Superiority Condition (優位条件) (Multiple Wh-Interrogatives (多重 Wh 疑問文において))
- a. Who saw what? (Jaeggli 1988: fn.1)
 b. *What did **who** see? (Jaeggli 1988: fn.1) ←
 c. Who did you persuade to buy what? (Hornstein 1995: p.124, (5a))
 d. *What did you persuade **who** to buy? (Hornstein 1995: p.124, (5b)) ←
 e. Which book did **which person** read? (Hornstein 1995: p.124, (4)) ←

2. スペイン語における作用域位置 (scope position)

英語用例 (11a) と (11b) のそれぞれに対応するスペイン語用例 (12a-b) は、共に適格と判断される。これは、スペイン語における Spec(AgrO) が scope position として機能することを示すと考えられる。対応する英語用例と異なり、(12b) のスペイン語用例が優位条件によって排除されることはない。

- (12) Superiority Condition in Spanish
- a. ¿Quién vio qué? 'Who saw what?'
 b. ¿Qué vio quién? '*What did who see?' (Jaeggli 1991: (8))
 c. *¿Qué dijo quién; t[que Juan compró t]? 'what did who say that Juan bought?' (Bošković 1997: (24))

これは、統語移動する目的語 Wh 要素 (*qué*) の scope position となる Spec(AgrO) が Wh-in-situ である主語 Wh 要素 (*quién*) の scope position (当該 Wh 要素の生成位置) を C 統御するためである。(12c) では、統語移動する Wh 要素 (*qué*) に対応する scope position がすべて従属節内にあるため、

主節内にある主語 Wh 要素 (*quién*) の scope position を C 統御することはない。

ここで、優位条件と同様に、Pair-List の読みにおいても Spec(AgrO) が scope position として機能すると考えてみよう。その場合、(3a) と (4a-b) のすべてにおいて、Pair-List の読みが許容されることになる。Gutiérrez Rexach (1995) が属す B グループでは、この予測が妥当する。しかしながら、A グループに属す Jaeggli (1991) が挙げる用例 (4a) では、Pair-List の読みが排除される (問題点)。以下の (13) における前置詞句 (*en cada/qué conferencia*) が与格構文の構造 (7) の AgrPP と同様に、vP に付加した位置に生成されると考えてみよう。その場合、(13a) と (13b) の双方において、Pair-List の読みが許容されると予測される (スペイン語の v が機能的範疇と想定されている点に留意されたい)。前置詞句 (*de cada/qué ciudad*) が vP に付加した位置に生成され、少なくともスペイン語において、非対格動詞 (unaccusative verb) の用例中の主語要素が vP の Spec 位置に生成されると前提した場合、(14a) と (14b) の双方が Pair-List の読みを許容すると予測される。このように、Pair-List の読みに関して、A グループの用例に対する予測が問題を惹起することになる。⁴⁾

(13) Unergative Intransitives

a. ¿Quién habló en cada conferencia de este año? [***Pair-List**] (Jaeggli 1991: (13a))

'Who spoke in every conference this year?'

b. ¿En qué conferencia habló cada profesor? [***Pair-List**] (Jaeggli 1991: (14a))

'In which conference did every professor speak?'

(14) Ergatives (Unaccusatives)

a. ¿Quién llegó de cada ciudad que conoce María? [***Pair-List**] (Jaeggli 1991: (15a))

'Who arrived from every city that Maria knows?'

b. ¿De qué ciudad que conoce María llegó cada turista? [***Pair-List**] (Jaeggli 1991: (16a))

'From which city that Maria knows did every tourist arrive?'

Jaeggli (1988: p.119) も指摘しているように、主語である Wh 要素が統語移動する派生において問題が惹起する点に留意する必要がある ((3a) の用例が示すように、普遍数量詞表現が主語となる派生が問題を起こすことはない)。これは、主語 Wh 要素の生成位置が scope position として機能しないことを前提とするものである (主語 Wh 要素の着地点 (Spec(Asp[+D]))(あるいは Spec(Asp[+N])) が scope position となる)。これにより、問題を惹起する A グループの用例すべてにおいて、Pair-List の読みが排除されることになる。例えば (13a) において、普遍数量詞表現である PP (*en cada conferencia de este año*) は主語 Wh 要素 (*quién*) の scope position である Spec(Asp[+N]) を C 統御することはない ((13b) では、主語である数量詞表現 (*cada profesor*) の scope position であるその生成位置が Wh 要素 (*en qué conferencia*) の scope position (当該要素の生成位置) を C 統御する)。

(15) Hypothesis for Jaeggli (1988, 1991):

In scope interaction between a universal quantifier and a wh-phrase, the landing site of a wh-phrase base-generated at Spec(v) is designated as its sole scope position. ⁵⁾

この仮説 (15) は、スペイン語における以下の心理動詞の用例における相違をも説明するものである。

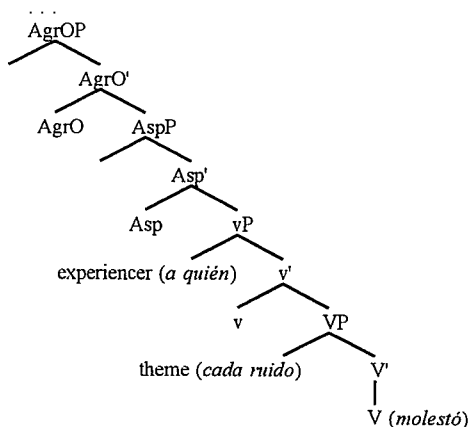
B グループに属す (16a) では, Pair-List の読みが許容される。その一方で, A グループの用例である (16c) では, Pair-List の読みが排除される。

(16) Psychological Verbs in Spanish

- a. ¿A quién molestó cada ruido? [^{*}Pair-List] ←
- ‘Who did every noise annoy?’ (Gutiérrez Rexach 1995: (19a))
- b. ¿Qué molestó a cada estudiante? [^{*}Pair-List]
- ‘What annoyed every student?’ (Gutiérrez Rexach 1995: (19b))
- c. ¿A quién le molesta cada canción que tocan por la radio? [^{*}Pair-List] ←
- ‘Who does every song that they play on the radio bother?’ (Jaeggli 1988: (18b))
- d. ¿Qué canción de los Beatles le molesta a cada adulto que conoces? [^{*}Pair-List]
- ‘Which song by the Beatles bothers every adult that you know?’ (Jaeggli 1988: (17b))

Franco and Huidobro (2003) と同様に, スペイン語の心理動詞の用例 (ここでは, (16a)) に対して構造 (17) を想定する。心理動詞に生起する経験者 (experiencer) 要素は Spec(v) に生成される。もう一方の主題 (theme) 要素は直接目的語の位置に生成される。普遍数量詞表現 (*a cada estudiante/ a cada adulto que conoces*) が生成される Spec(v) の位置は, 主題 Wh 要素 (*qué/ qué canción*) が生成される位置を C 統御する。つまり, (16b) と (16d) における Pair-List の読みが許容されるという予測が可能となる。

(17) Structure of Psychological Verb Constructions



心理動詞に生起する経験者 Wh 要素と通常の主語 Wh 要素が同様の取り扱いを受けることになる。Jaeggli が属す A グループでは, 経験者 Wh 要素の scope position として, 当該 Wh 要素の着地点 (Spec(Asp[+N])) が指定されることになる。(17) の構造からも判明するように, 主題要素の生成位置が経験者要素の生成位置を C 統御することはない。これにより, Jaeggli (1988) が提示する (16c) において, Pair-List の読みが排除されることになる。同時に, 仮説 (15) が適用されない B グループの用例である (16a) もまた, Pair-List の読みを排除することになる (問題点)。この問題は, スペイン語における心理動詞構文の特殊性を勘案することにより打開される。(18c-d) のような心理動詞の構文においては, 裸の主語 (bare subject), より具体的には裸の主題 (bare theme) の生起が許されない (こ

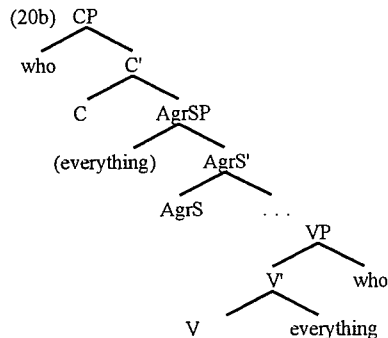
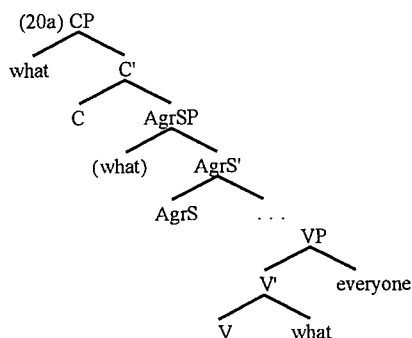
これは、心理動詞の構文でない (18a-b) と好対照を成す)。

- (18) a. Siempre llegan cigüeñas en junio 'Storks always arrive in June' (Franco and Huidobro 2003: (10b))
 b. Me faltan champiñones 'I lack mushrooms' (Franco and Huidobro 2003: (11a))
 c. *Me gustan champiñones 'I like mushrooms' (Franco and Huidobro 2003: (11b))
 d. *A Juan le gustan cigüeñas 'Juan like storks' (Franco and Huidobro 2003: (10c))

これは、心理動詞構文における主題要素が vP 外部の位置へ移動していることを示す。主題要素の移動先として、AgrO の投射と v の投射の間にある Asp の Spec 位置を想定する (Franco and Huidobro 2003: p.146)。主題要素に想定されるこの Spec(Asp) 位置が当該要素の scope position にカウントされると考えてみよう。この Spec(Asp) 位置にある普遍数量詞表現が基底生成された位置にある経験者 Wh 要素を C 統御することになる。仮説 (15) が適用されない B グループの用例としての (16a) における Pair-List の読みが許容されることになる。仮説 (15) が適用される A グループの用例である (16c) では、経験者 Wh 要素の生成位置が scope position として機能しない (scope position が当該経験者 Wh 要素の着地点 (Spec(As+N]) に指定される)。結果として、主題数量詞表現の scope position が経験者 Wh 要素の scope position を C 統御することはない (Pair-List の読みが排除される)。

Pair-List の読みに関して、英語の心理動詞構文とスペイン語の A グループの挙動が並行する。(19a-b) に対応する (20a-b) で考える ((20) の構造の概略は、Belletti and Rizzi (1988) による)。心理動詞構文において、Spec(AgrS) が一般的に scope position として機能しないと考える。(20a) の構造において、普遍数量詞 (everyone) の生成位置が Wh 要素 (what) の生成位置を C 統御する。つまり、(19a) における Pair-List の読みが許容されることになる ((19b) では、この読みが排除される)。注目すべきは、主題数量詞が [+human] である (20d) における Pair-List の読みが許容される話者グループの存在である。この話者グループでは、[+human] である主題数量詞に対して、Spec(AgrS) が scope position として機能すると考えられる。

- (19) a. What worries everyone? [^uPair-List] (Kim and Larson 1989: (6a))
 b. Who does everything worry? [^u*Pair-List] (Kim and Larson 1989: (6b))
 c. Who excites everyone? [^u*Pair-List] (Kim and Larson 1989: (7a))
 d. Who does everyone excite? [^u*Pair-List]/ [^u*Pair-List] (Kim and Larson 1989: (7b)/ fn.2)



3. 結び

本稿の仮説群は、Wh 要素が長距離移動する用例 (21) から (23) のすべてにおける Pair-List の読みを許容する (数量詞表現の scope position が Wh 要素のそれを C 統御する)。Uribe-Etxebarria (1992) によれば、(21b) における Pair-List の読みが排除される。同時に、(22b) と (23b) における Pair-List の読みが排除される話者グループ (β) の存在が確認される。

(21) (Uribe-Etxebarria 1992: (24); (44))

a. ¿Qué dices [CP1 que los amigos han visto **en cada ciudad**]? [*Pair-List]

b. ¿Qué dices [CP1 que han visto los amigos **en cada ciudad**]? [*Pair-List]

‘What do you say that the friends saw in each city?’

(22) (Uribe-Etxebarria 1992: fn.78, (ia); (ib))

a. ¿Qué dices [CP1 que Pedro ha dado **a cada amigo**]? α : [*Pair-List] / β : [*Pair-List]

b. ¿Qué dices [CP1 que ha dado Pedro **a cada amigo**]? α : [*Pair-List] / β : [*Pair-List]

‘What do you say that Peter gave to each friend?’

(23) (Uribe-Etxebarria 1992: fn.78, (ia); (ib))

a. ¿A quién dices [CP1 que Pedro (le) ha dado **cada libro**]? α : [*Pair-List] / β : [*Pair-List]

b. ¿A quién dices [CP1 que (le) ha dado Pedro **cada libro**]? α : [*Pair-List] / β : [*Pair-List]

‘Whom do you say that Peter gave each book to?’

付加語数量詞表現 (*en cada ciudad*) が生起する (21) と β グループが惹起する問題は、ある一定の条件下で、長距離移動する Wh の scope position として当該要素が通過する CP1 内の Spec(Asp[+N]) (あるいは、Spec(Asp[+D])) が指定されると考えることにより打開される (β グループにおいて)。この scope position 指定は、Left Dislocation が発動しない場合に適用されると考えられる (これは、数量詞が Spec(v) に生成されない要素である派生に限定される)。数量詞が Spec(v) に生成される派生では、当該数量詞に Left Dislocation が適用された場合に、この scope position 指定が適用されると考えられる。これは、以下の (24) の用例によって例証される。Left Dislocation の適用を受けた要素の位置が scope position としてカウントされないため、主語数量詞 (*cada senador*) の生成位置が、CP1 の Spec(Asp[+N]) と指定される目的語 Wh 要素 (*a quién*) の scope position を C 統御することはない (付加語 Wh 要素 (*por qué*) は Spec(Asp[+N]) (あるいは、Spec(Asp[+D])) でなく Spec(Int) を経由するため、scope position の指定が発動しない)。⁶⁾

(24) (Martín 2003: (4a); (4b); (5))

a. ¿[A quién]_i dices que **cada senador** amaba **t_i**? [*Pair-List]

b. ¿[A quién]_i dices que amaba **cada senador** **t_i**? [*Pair-List]

‘Who do you say that each senator loved?’

c. ¿Por qué piensas que **cada parte** quería firmar el acuerdo? [*Pair-List]

‘Why do you think that each side wanted to sign the agreement?’

以下の (25) で示されるように、(1a) と同じく他動詞が生起する派生において、Pair-List の読み許容されない話者グループの存在が確認される。このグループにおいても、Wh 要素の scope position としてその着地点がその scope position と指定されると考えられる。

- (25) a. Who did everything destroy? [*Pair-List] (Kim and Larson 1989: fn.2)
 b. Who/What did everything ruin? [*Pair-List] (ibid.)

註

*) 本稿は、日本ロマンス語学会第 42 回大会 (東京音楽大学 2004 年 5 月 16 日) における口頭発表の一部を拡張したものである。

- 1) C 統御定義として、Hornstein (1995: p.176) の定義 (i) を採用する。英語では、機能的範疇 (Functional Category) として、Agr と D が指定される (主語要素がその Spec 位置に生成される v を含め、その他の範疇が語彙的範疇 (Lexical Category) と同定される)。スペイン語においては、Agr と D に加え、主語要素がその Spec 位置に生成される v も機能的範疇と想定される。AgrO と v の間に生成される Asp の投射は語彙的範疇と想定される (基底生成された位置にある主語要素が Spec(AgrO) 位置を C 統御することはない)。本稿では、英語の数量詞 (*every*) とこれに対応するスペイン語の数量詞 (*cada*) からなる表現に検討が加えられる。

(i) Definition of c-command:

A c-commands B if and only if every lexical projection that dominates A dominates B.

- 2) スペイン語の与格構文における Pair-List の読みは、(9) の英語用例と並行する。

(i) a. ¿A quién entregó María cada regalo? [*Pair-List] (Jaeggli 1991: (17a))
 'To whom did Maria give every gift?'

b. ¿Qué nota le otorgó el profesor a cada estudiante? [*Pair-List] (Jaeggli 1991: (17b))
 'What grade did the professor give to every student?'

- 3) 英語に関する更なる論考に関しては、石岡 (2004) を参照されたい。

- 4) これまで想定されている本稿の仮説群によれば、(13a) と (14a) の双方における Pair-List の読みが許容されることになる。付加語 (*cada mañana*) が同じく vP に付加した位置に生成されると想定した場合、当該付加語の生成位置が主語の生成位置を C 統御することになる。これが妥当する場合、以下の (ia) と (ib) の双方が Pair-List に解釈を許すと予測される (B グループの用例として)。 (ia) のタイプに対する予測は、Gutiérrez Rexach (1995) によって例証される。

(i) a. ¿Qué chico compra un periódico cada mañana? [*Pair-List] (Gutiérrez Rexach 1995: (14a))
 'Which boy buys a newspaper every morning?'

b. ¿Cuándo compra cada chico un periódico?
 'When does every boy buy a newspaper?' [*Pair-List] (未検証)

- 5) 本稿では、Martín (2003) が提唱する構造に類似する (i) の CP 構造が想定される (スペイン語に関して)。定動詞は従来の AgrS に対応する Asp[+N] の位置に生成される。定動詞の左方に生起する主語 DP 要素は、Left Dislocation の適用を受け、例えば Asp[+D] の最大投射の直接上位 (あるいは Asp[+D] の最大投射と Asp[+N] の最大投射の間) に生成される Top の Spec 位置へ移動する (本稿では、Left Dislocation の適用を受けた要素の位置が scope position を構成することはないと想定する)。Wh 要素は、その類別により、Spec(Asp[+D]) あるいは Spec(Asp[+N]) へ移動する。Non-D-Linked Wh 要素である単純 Wh 要素は、より下位 Spec(Asp[+N]) へ移動する。D-Linked Wh 要素は Spec(Asp[+D]) へ移動する。

(i) [ForceP... [IntP... [AspP[+D] ...[AspP[+N] V] ...[AgrOP... [AspP ...[vP ...[VP...]]]]]]]]

以下の (ia-c) は、(15) の仮説が特定表現 (specific expression) を随伴していない派生に適用されることを示す (特定表現として、(iia) の PP (*de los pacientes*) と (iib) の再述接語 (*lo*) が同定される)。

(ii) a. ¿Quién examinó a cada uno de los pacientes? [*Pair-List] (Jaeggli 1991: (53))
 'Who examined each one of the patients?'

b. ¿Quién lo examinó a cada paciente? [*Pair-List] (Jaeggli 1991: (55a))
 'Who examined every patient?'

6) Martín (2003) によれば、点過去 (preterit) の動詞と D-Linked Wh 要素の双方が生起する派生において、Pair-List の読みが許容される (Wh 要素が Non-D-Linked Wh 要素である (ib) では、この読みが排除される)。仮に、動詞が点過去 (preterit) の場合、Spec(Asp[+N]) の位置のみが Wh 要素の scope position と指定されると考える(D-Linked Wh 要素が通過する Spec(Asp[+D]) は scope position と指定されない)。

(i) (Martín 2003: (30); (31))

a.¿A qué secretaria dijiste que cada senador disparó? [*Pair-List]

b.¿A qué dijiste que cada senador disparó? [*Pair-List]

'To which secretary/To what did you say that each senator shot?'

参考文献

- Aoun, Joseph and Yen-hui Audrey Li (2003) *Essays on the Representational and Derivational Nature of Grammar*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Belletti, Adriana and Luigi Rizzi (1988) "Psych-Verbs and θ -Theory," *Natural Language and Linguistic Theory* 6, 291-352.
- Bošković, Željko (1997) "On Certain Violations of the Superiority Condition, AgrO, and Economy of Derivation," *Journal of Linguistics* 33, 227-254.
- Chierchia, Gennaro (1993) "Questions with Quantifiers," *Natural Language Semantics* 1, 181-234.
- Chomsky, Noam (2000) "Minimalist Inquiries: The Framework," *Step by Step*, ed. by Roger Martin, David Michaels, and Juan Uriagereka, MIT Press, Cambridge, MA.
- Chomsky, Noam (2001) "Derivations by Phase," *Ken Hale: A Life in Language*, ed. by Michael Kenstowicz, MIT Press, Cambridge, MA.
- Franco, Jon and Susana Huidobro (2003) "Psych Verbs in Spanish Leísta Dialects," *Linguistic Theory and Language Development in Hispanic Languages*, ed. by Silvina Montrul and Francisco Ordóñez, 138-157, Cascadilla, Somerville, MA.
- Gutiérrez-Rexach, Javier (1995) "The Scope of Universal Quantifiers in Spanish Interrogatives," *Grammatical Theory and Romance Languages*, ed. by Karen Zagana, John Benjamins, Amsterdam.
- Hornstein, Norbert (1995) *Logical Form: From GB to Minimalism*, Blackwell, Oxford.
- Hornstein, Norbert (1999) "Minimalism and Quantifier Raising," *Working Minimalism*, ed. by Samuel David Epstein and Norbert Hornstein, MIT Press, Cambridge, MA.
- Jaeggli, Oswaldo (1988) "ECP Effects at LF in Spanish," *Advances in Romance Linguistics*, ed. by David Birdsong and Jean-Pierre Montreuil, Foris, Dordrecht.
- Jaeggli, Oswaldo (1991) "Head Government and LF-Representations," *Logical Structure and Linguistic Structure: Cross-Linguistic Perspectives*, ed. by C.-T. James Huang and Robert May, Kluwer, Dordrecht.
- Kim, Young-Joo and Richard Larson (1989) "Scope Interpretation and the Syntax of Psych-Verbs," *Linguistic Inquiry* 20, 681-688.
- Martín, Juan (2003) "Against a Uniform Wh-Landing Site in Spanish," *Theory, Practice, and Acquisition: Papers from the 6th Hispanic Linguistic Symposium and the 5th Conference on the Acquisition of Spanish and Portuguese*, ed. by Paula Kempchinsky and Carlos-Eduardo Piñeros, Cascadilla, Somerville, MA.
- Pesetsky, David, (2000) *Phrasal Movement and Its Kin*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Stroik, Thomas (1996) *Minimalism, Scope, and VP Structure*, SAGE Publications, London/New Delhi.
- Uribe-Etxebarria, María (1992) "On the Structural Positions of the Subject in Spanish," *Syntactic Theory and Basque Syntax*, ed. by J. A. Lakarra and J. Ortiz de Urbina, ASJU, Denostia.
- Uribe-Etxebarria, María (1995) "On the Nature of SPEC/IP and its Relevance for Scope Asymmetries in Spanish and English," *Contemporary Research in Romance Linguistics*, ed. by Jan Amaste, Grant Goodall, Mario Montalbetti, and Marianne Phinney, John Benjamins, Amsterdam.
- Williams, Edwin (1988) "Is LF Distinct from S-Structure? A Reply to May," *Linguistic Inquiry* 19, 135-246.
- 石岡精三 (2004) 「英語における優位条件の緩和について」長岡技術科学大学『言語人文科学論集』18, pp. 81-116.